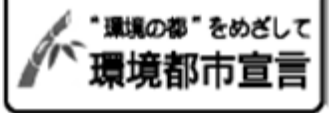


# 環境の都ニュース

2012. 1. 1 NO. 61



発行：長岡京市  
環境の都づくり会議  
発行責任者：江川 宗治  
編集担当者：山本 雅夫

## 「目出度さもちう位也おらが春」

壬辰（みずのえたつ・じんしん）の新年が始まりましたが、私は表題の小林一茶の句が思い出されま  
す。度重なる悲惨、災難の中で詠まれた句です。

昨年3月11日には日本にとつてあまりにも大きく  
影響が長引く災難がありました。全国民が喪に服す  
べきではないかと思う一方、復興と希望を目指して  
絆を確かめ合う必要も痛感しています。

今年、「長岡京市環境の都づくり会議」が発足  
して10年になります。この「環境の都ニュース」も  
隔月発行で61号ですから10年になります。この会議  
が発足して間もなくの2005年2月16日にはCO  
P3の京都議定書が発効しました。雨の中、私も希  
望に満ち、京都市役所から祇園八坂神社まで、祝賀  
パレードに参加しました。しかし、昨年はヨーロッ  
パ不安、タイ水害、日本の原発事故の影響などが懸  
念される中でCOP17が南アフリカ・ダーバンで開  
催されました。「会議は踊り」ながら結論を先送り  
したような格好で決着しましたが、地球の温暖化は  
確実に進行しています。

また、日本が提案し、国連総会で採択された「国  
連持続可能な開発のための教育の10年（2005年  
から2015年まで）」の経過の中にあります。こ  
の他、地球環境に関してたくさんの制度や法律がで  
きました。日本の環境政策の根幹を定める「環境基  
本法」（1993）、第1次環境基本計画（1994）、  
第2次環境基本計画（2000）、第3次環境基本  
計画（2006）が定められました。さらに各地方自  
治体では「環境基本条例」などが制定されています。  
2003年に制定された「環境の保全のための意欲  
の増進及び環境教育の推進に関する法律」は201  
1年6月には一部改正されました。はたしてこのよ  
うな制度や法律だけで地球環境、生活環境は良くな  
るのだろうかと思えます。

地球温暖化防止をはじめとする環境保全活動は、  
やはり各家庭、各個人の意識改革が不可欠です。そ  
のためには身近な実行・活動ならびに啓発が遠回り  
のようで近道だと思われます。今後「環境の都」  
を目指して地道な活動を進めていきたいと思えます。

環境の都づくり会議

西村日出男



# 竹林再生 PJ



## 竹林再生活動報告

平成22年6月から取組んだ8か所目の栗生の竹林で記念撮影、当日は京都新聞の取材もありました。今年は全員怪我も無く、無事仕事が完了しました。



## 長岡京竹あそびを京都府大会で発表

府の生活会議、生活学校連絡協議会研究大会が平成23年11月19日京丹波町で開催され、39団体の協働で取り組んだ成果を発表し長岡京市の竹をPRしました。  
(発表及びこのPJ欄の報告；渡邊)

## 竹チップづくり

放置竹林の整備で出た不要竹を「チッパー」で数ミリ大に粉碎。そのチップは土壌改良材として畑や竹林に蒔き有効活用しています。



# 花を咲かそう PJ



国民文化祭の来訪歓迎として10月下旬JR駅前に竹筒に植え込んだ花(なでしこ、びおら)を「花いっぱい」のメンバーで撤去。12月3日の市民環境フォーラムで再度のお勤め。花にも環境にも優しい「リユース」のつもりです。  
(湯川智子)



## 正月飾りづくり

緑のサポータの恒例行事で正月飾りを作りました。前日から当日の午前中まで材料調達とプレカットを行い、午後からは各自工夫を凝らしながら、太竹に縄を巻いた器に松、竹、梅、葉牡丹、南天、せんりょう、稲穂などを飾りつけました。絶妙のチームワークで1年を楽しく締めくくられました。作品のうち5基は公民館や体育館などに進呈しました。  
(奥西)



# ビオトープ PJ



## 11月12日(土) 第6小のすくすく教室

子ども達14名、保護者9名、市職員3名の参加により、環境の作業場で「竹の遊びと工作」を実施しました。今回は初めての試みで、竹の工作を行いました。竹ポットの足の組立て、花の植え込み(花はナデシコ、ピオラを使用)

子ども達の終わった後 お母さん達も喜んで取り組んでおられました。花は地域力基金で調達、それぞれの校区に花の輪を作るのが目的です。  
(小根田)



## 今年最後のすくすく教室

12月10日(土) 長法寺小の児童達のすくすく教室を元竹炭焼窯場(環境の作業場)で今年最後の校外授業を行いました。

朝から非常に寒く、参加者の子ども2名と少なかったですが父兄の方や世話役のがんばりで楽しい時間が過ごせました。



ドラム缶の竹炭焼窯で模擬体験 子どもにとって火をつけることや、火を起こすことの難しさを体験してもらいました。竹のプランターに花植えしたり竹笛作り、弓当て、輪ゴム鉄砲、竹馬、竹ポックリ、最後に遊んだ用具を持って記念撮影充実した時間が過ごせたと思います。この場をお借りしまして今年色々とお世話して頂いた皆様にお礼申し上げます。  
(小根田)

## ガラシャ祭りに参加

ビオトープとエコチームが、ガラシャ祭りでの環境の都づくりとして、参加。ビオトープは竹炭アート、エコは使用済みの牛乳紙パック利用の紙工作を子ども達に提供し好評でした。(写真左) 竹炭アート(写真右)は女の子が一番好きですね、100個近く準備した材料が午前中で完了しました。(小根田)



## エコチーム PJ



エコチームを紹介します。

(報告 田原)

「エコ」とは「エコロジー」の略で、「地球にやさしい」とか「環境にやさしい」という意味です。

最近では、電力不足の観点から節電が推奨されていますが、電気を大切に使うことで、発電に使う石油や石炭の消費を減らし、発電時に発生するCO2を削減することで地球温暖化の防止になります。またごみを少なくすることは、焼却するときに発生するCO2を少なくすることで、同じく、地球温暖化防止に役に立ちます。

エコチームは、「省エネ相談会」の開催や「使用済み天ぷら油(廃食用油)の回収」によるごみ削減など「エコな生活」をするお手伝いをしています。(写真1)省エネ診断会の様子 (写真2)使用済み天ぷら油を使ったエコローソク(写真3)竹筒のソーラー街灯(上部のソーラー素子で日中充電し暗くなると「目」が光ります。石田作、小根田絵)



写真1



写真2



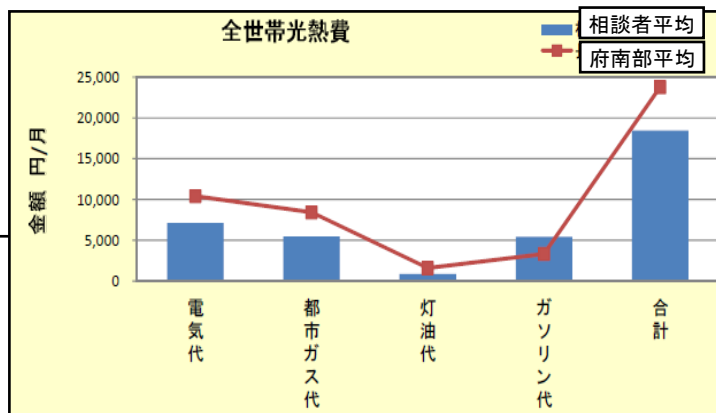
写真3

## エコチームPJ最近の活動記録

- ①ガラシャ祭(11月13日); 牛乳パックリサイクル工作びっくり箱など
- ②アゼリア祭(11月23日); 同上
- ③長岡京市環境フェア(12月3日); 省エネ相談
- ④京都府環境フェスティバル(12月10日); 当会議の紹介他、牛乳パックリサイクル工作、廃油ローソク等

### 長岡京市環境フェアでの省エネ相談の結果から

31名の相談に応じました。結果は大変省エネを実行されていました。(結果は右グラフ) ガソリン以外は府の平均より20~30%少ない消費量でした。フェアには環境意識の高い人が集まるからでしょう。今後も相談活動を行います。



## 里山再生 PJ



### 第10回クリスマスリースづくり

11月26日(土) 場所 ころさ学習室2 参加者 35名  
講師 花のアトリエ Y's ガーデン 八木 麻里(やぎまり)先生  
今回で10年目を迎えました。ここ数年大変好評です。

<クリスマスリース> 写真A

4辺の枝と緑(あすなろの葉)をリースにくくりつけます。

<正月用竹飾り> 写真B

台とパーツをお持ち帰りいただきました。正月まで湿らせて保存。(里山再生 加藤)



写真A



写真B

### エスリード自治会クリスマスリースづくり報告

12月4日(日)1階エントランスホールで実施

参加者 25名(自治会 大人12名 子ども10名)

昨年に引続き2回目の実施。大人はリースづくり、子どもはリースづくりをしたり、松ぼっくりのミニツリーづくりをしました。20種類ちがい里山素材で、カラスウリの緋色、せんだんの薄緑などが目立ち、豪華に仕上がりました。(写真左)

リースは入り口のホールやエレベーター横に取り付けて皆に見てもらおうとのことでした。

(報告 里山再生 加藤)





# 環境教育PJ



環境教育ミーティング 開催のお知らせ

平成24年1月19日(木) 夜7~9時 長岡京市立中央公民館2階講座室にて行います。入場料・予約共に不要です。

講師：川上 由起さん(京都府立西乙訓高等学校 地理歴史・公民科教諭)

お話の題：地理歴史や文化の視点からの環境教育 (～高等学校の地理歴史の新しい取り組み～)

お話の内容：西乙訓高校では現在、文部科学省の指定を受けて、従来の「日本史」「世界史」「地理」の3分野を統合した新しい科目の開発研究を進めています。それは、①まず身近な地域(地元)の自然や歴史への興味関心が育ち、②次に日本や世界へと視野を広げてさまざまな事象を「知己の風土」と「歴史的経緯」の両面から学び、③その中から自国の環境をより良く守ろうとする態度や、伝統や文化に対する誇りと愛着が育つ、という学習のできる科目にしたいと思っています。こう語ると、壮大な夢のように聞こえますが、少しでも叶えようと、教材開発に努力しています。今回の発表では、そのような日々の授業の一部を、生徒の様子を交えてご紹介します。

主催：環境の都づくり会議/長岡京市立中央公民館 後援：長岡京市 京都府地域力再生活動



## トピックス



長岡京市“環境の都”賞を受賞しました。長岡京市広報の紹介文を以下引用します。

長岡京市環境の都づくり会議の前身である「ながおかきょう市民環境会議」は、平成13年組織されたものです。主な活動としては、エコ・チームや環境教育、ビオトープなど7つのプロジェクトチームを設置し、他団体や行政と連携を図りながら各プロジェクトチームの主体性を基本として活動を展開しています。他にも、地元商店街と連携した打ち水大作戦や、環境講演会など本市の環境まちづくりに向けての功績は多大で、今日までの実績が評価され、平成23年6月には代表である江川宗治氏が京都府の『環境保全功労者表彰』を受賞されています。

右写真は受賞式の江川代表(人物左)



### 子どもたちに夢を「学校ビオトープでホタルを育てよう」

小学校のビオトープでホタルを育てる計画を推進中で、他の団体とも協力しホタル育成・観賞の実現を目指します。長岡京市では小泉川上流域で、環境団体が良好なホタル生育環境の保全に努力していますが、「にそと」工事の影響で、小泉川の環境が大きく変化しています。長岡京市環境の都づくり会議でも市内でのホタルの生育環境の保全を目指し、小学校ビオトープ活用を進めます。小学校の中でも長六小のビオトープは、自然状態に近く維持管理も良好で、ホタルの餌となるカワナガが多数生息していることから活動の対象として最適です。当会議では、ビオトープPJが中心に計画に参画する予定です。

### ★★★ 環境の都づくり会議のプロジェクトと連絡先 ★★★

プロジェクト名	内 容	連絡先	T E L
里山再生PJ	森林ボランティア他	加藤	951-0933
環境教育PJ	環境教育ミーティング	西村	952-3718 =FAX
エコチームPJ	地球温暖化防止への取り組み	田原	953-1696
ビオトープPJ	ビオトープや川あそび	小根田	957-4081
花を咲かそうPJ	街角花いっぱい運動	湯川	952-5505
まち歩きPJ	市内を歩いて再発見(地元学入門)	柳沼	090-1954-9669
竹林再生PJ	竹林再生	渡辺	090-7755-9238

「YAHOO」又は「GOOGLE」で「環境の都ニュース」と検索しますと、きれいなカラー紙面の「環境の都ニュース」を楽しむ事が出来ます。是非、ご覧下さい。

「環境の都づくり会議」では、さらなる活動の飛躍を期して活動協賛金を募っております。

協賛金 一口年間1000円(一口以上)

あなたも「長岡京市環境の都づくり会議」に参加してみませんか。どなたでも参加できます。

情報や「ニュース」の感想なども下記の事務局までお寄せ下さい。

【事務局】長岡京市環境政策推進課 〒617-8501長岡京市開田1-1-1

電話：075-955-9542(直通) Fax：075-951-5410

Email：kankyouseisaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp

編集後記 (文：山本)

ニュースの記事を各PJ(プロジェクト)ごとに区分していますが、2ページ目の3PJ(竹林再生・花を咲かそう・ビオトープ)はPJ間での協力関係が強く、一つの行事に複数のPJメンバーが参加しています。今後、実態に合わせた記事構成となるようにしたいと思います。

当会にメンバーから見て相当年下の女性2名が体験入会、定例会議では男性メンバーの声は1ランク大きく、高くなった気がします。元気がなによりです。